

桜蔭俳話会 十月句会 (第三二九回)

平成二十六年十月十八日(土)

吟行(赤レンガ倉庫・象の鼻・横浜大栈橋)

4点	酸化鉄滲む倉庫や秋気満つ	明美	十月の明るき空に子らの声	邦子
3点①	象の鼻てふ岬歩けり鯨日和	友子	秋晴れに佳き日迎へる夫婦かな	眞壽
3点①	秋潮や渡航歴なきパスポート	明美	秋の街煉瓦と並ぶビルディング	邦子
3点	発電の風車空切る秋の蝶	秀一	穀物船地球の裏より暮の秋	明美
3点	シーバスの重油の匂ひ秋運河	守	秋澄んで昔なつかし大栈橋	眞壽
2点①	氷川丸遠き旅終へ秋深し	ツル子	赤レンガ喉越感じドイツビール	直子
2点①	祝福や大栈橋の高き空	才美	氷川丸日章旗揺れ天高し	ヤエ子
2点①	シーバスのガードくぐるや赤とんぼ	秀一	秋風に乗つて届けよ汽笛かな	邦子
2点①	向きあひてさらふウクレレ海桐の実	秀一	鷗飛ぶ横浜港に波飛沫	直子
2点	象の鼻元防波堤ここにあり	直子	鯨日和方程式の解二つ	守
2点	ぶたくさやビールフェスタへ長い列	ヤエ子	うすもみぢ三三五五の港町	弘子
2点	秋つばめ人影見えぬ観覧車	秀一	タンカーの海境に消ゆあと秋空	才美
2点	観覧車ゆつくり回す秋日和	弘子	潮の香を胸いつばいに小鳥来る	友子
1点①	秋光やシルクロードの海に尽き	守	外国の香る横浜秋の風	邦子
1点①	ジャズ流る路地に浮塵子と船員と	明美	秋気嗅ぎぬし税関の麻薬犬	明美
1点①	ジャズ似合ふ赤煉瓦倉庫ハマの秋	ヤエ子	氷川丸日の丸国旗秋風吹く	直子
1点①	赤れんがに沁みる史のあり天高し	友子	秋晴れに吹かれて望む港町	眞壽
1点	秋潮のほかは触れへぬ象の鼻	才美	日章旗の白ばかり見て秋日和	才美
1点	束の間のシーバス秋の旅心地	弘子	栈橋の足にやさし板秋日照る	ヤエ子
1点	音のなき引き船忙し秋の海	ツル子	車窓からぬくもり感じる秋日差し	邦子
1点	煉瓦倉の明治魂秋高し	才美	秋風やシーバスエンジン心地よく	直子
1点	秋空と港の間銀の橋	弘子	秋風に賑わい楽し赤煉瓦	眞壽
1点	秋の潮黒く光りてビル浮かぶ	眞壽	秋光や遠近法の中の街	守
1点	秋天のジャックの時計十一時	幸	(不在投句 古野明美、稲葉幸)	
1点	象の鼻くすぐる潮の爽やかさ	ツル子		
1点	三塔の見える位置へと落葉道	幸		
1点	栈橋の鯨のせなに秋の風	ツル子		
1点	秋の日の跳ねて倉庫の赤レンガ	守		
1点	青北風や甲板上の深呼吸	友子		
1点	沖合の風力発電秋高し	ツル子		
1点	秋寂びて賓客迎へし木像嵌	幸		

〔事務局からお知らせ〕

○十一月の句会

- ・日時 十一月十六日(日)午後一時から
- ・会場 旭区民文化センター・サンハート
- ・会場 旭区民文化センター・サンハート
- (相鉄線二俣川駅ライフ五階)
- 十二月の句会
- ・日時 十二月二十一日(日)午後一時から
- ・会場 旭区民文化センター・サンハート

※

雲探す秋の港のまぶしめり 弘子  
 栈橋から三百六十度絶景秋の空 ヤエ子  
 鯨の潮汽笛残せし巡視船 秀一  
 観覧車へ反射の秋日船の旅 友子

〔旭区俳句会作品展〕  
 十一月十日から十七日、サンハートギャラリー  
 で(十一日は休館)。当会から十三人参加。